

3段階評価 A：達成 B：一定の成果あり C：不十分

自己評価（総合）	B	学校関係者評価（総合）	A
----------	---	-------------	---

教育の方針	確かな知識・技術を身に付け心豊かで温もりのある医療人の育成するために、高い志と自主・自律の精神の下、協働と協調を基調とした教育を展開する。			
努力目標	自己評価	結 果 報 告	外部評価	学校関係者（外部委員）からの意見・提言
1. 医療福祉に有為な人材の育成を目指した誇り高い校風づくり	B	医療現場に即して、確かな知識・技術の習得と責任ある自律した行動を学生一人一人ができるよう、敷地内禁煙、ゴミ箱を廃して私用ゴミの持ち帰り等を課し、かなり浸透してきている。全般に医療系らしい落ち着いた校風が醸成されつつある。	B	将来の医療人となるための人を育てる視点が明確で個を生かす指導が徹底している。学生をとことん面倒見る姿勢が高い出席率に表れている。授業評価において学生が高評価を示しており、学生の実態に即して学生に目を向けた取り組みをしていることが感じられ、よい校風づくりが根付いている。
2. 国家試験等の合格実績向上とそのための学習態度の確立	B	看護と理学療法士養成学科は国家試験に向けて、これまでの各科独自の対策に加え、より一層習熟度別の対応に努めた。毎回の模試の成績を分析して数グループに編成しそこに 1 名ずつ教員を配置してレベルに合わせた講義解説と個別指導を展開。また、国試 1 ヶ月前からは 21 時までの夜間学習も実施して本番を迎えた。医療秘書学科は少人数にきめ細かな指導を徹底し、多数の専門資格取得に実績を残した。	B	看護学科の国家試験合格率 100%達成はすばらしい。理学療法士養成学科は残念な結果であったが、不合格学生も皆合格ラインまであとわずかであったようなので、その点の分析と次へ向けての努力を重ね次年度は結果が出るよう期待する。単に合格率 100%にするための輪切り指導でなく、国試合格ボーダーに達していない学生への関わり方や夜間、休日の取り組みなど学校側の熱心な姿勢は評価できる。
3. 全職員の協力による学生募集の推進	C	平成 27 年度県内に医療系専門学校が開設するために危機感を持って募集活動を展開したが、結果的にこれまでの本校の募集スタイルを踏襲しただけに終わり、斬新さや魅力に欠けた。オープンキャンパス参加数が前年度比 3 割減となり、そのまま受験数減につながった。募集のあり方に対して抜本的な見直しの必要性に迫られている。	B	オープンキャンパスの参加者と入学者数が比例しているように見える。オープンキャンパスの参加数減少の原因をきちんと分析する必要がある。開催時期や 2 年生を対象とする内容など新たな企画も考案してほしい。特に医療秘書学科の募集に力をいれてほしい。当校を知らない人が多いようなので、この学校をもっと知ってもらえる広報の工夫が必要である。
4. 個を生かす進路指導の推進	B	看護・理学の両学科は国家試験に合格すれば就職は約束される。そのために、逆算した年次の指導計画が学科ごとに確立している。国家試験合格率の高い看護学科は夏休みを中心にほとんどの学生が内定先を確定した。本年度は県内に 8 割以上、そして県病院 7 名、国立病院 5 名など公務員が目立った。理学は 3 月の国家試験受験着後から求職活動が本格化し事情のある一人を除いて内定、医療秘書は全員が病院事務に内定した。	A	当校のとことん学生の面倒を見る取り組みが進路内定の好結果に結びついているが、国家試験のある学科は合格しないと専門職として就職できないので、何としてでも国試全員合格へ向けて努力してほしい。
5. 退学生の防止	A	平成 26 年度の退学数は 6 名で、いずれも学業不振や実習における適応不能に起因した進路変更である。一昨年度 16 名、昨年度 12 名の退学数から少しずつ改善し、6 年ぶりに 1 桁台になった。本校の場合退学に至る経緯や理由がある程度絞れるために、教員もそれを見越し予知した行動や関わりを行っており、成果につながりつつある。	A	出席率の高さが素晴らしく、それが退学防止に繋がっていると思われる。教職員が学生と密に関係性を持っていることが窺える。実習先においても、教員が学生個人の性格をよく把握して指導している姿を目にしており、常日頃の献身的で情熱あふれる指導が功を奏していると思われるので、今後も継続してほしい。
6. 地域社会及び関連機関との連携	B	昨年から義務付けた毎学期に 1 回以上のボランティア活動は継続して実施できた。これに加えて、地元でのスポーツ大会に学科職員と学生がスポーツ団体と連携して、医務サポートを行うなど、新たな連携を模索した。また、より地域連携を深めるために、学生・教職員全員から意見を集め、校内会議を発足させて、新たな連携のあり方の検討を進めている。	A	ボランティア活動は人として学ぶことがたくさんあるとてもよい機会なので、学校全体で取り組んでいるのは評価できる。新たにスポーツ大会にも窓口を広げたが、加えて高齢者予防事業等への地域連携活動が企画化されると社会認知にも役立つと考えられ、学校がますます地域に浸透していけると思うので検討してほしい。
7. 経費節減と校納金完納の推進	A	予算執行は毎月実績を確認して、必要最小限の支出を図った。毎月の職員会議では光熱水費使用量や金額を示し、職員の意識高揚を図っている。多くの費目で前年度比減か並みであった。校納金については、2 月末までに完納しており事務と教員の連携も良好であった。	A	ゴミを出さない、光熱水費削減の学校全体の取り組みが浸透し、データとして経費削減の実績を積み上げていることは評価できる。一部 LED の導入が進んでいるようだが、年次計画で段階的に省エネ機器やシステムの導入を推進していくとさらに経費軽減につながる。

※「外部評価」は 8 名の委員の評価平均を四捨五入した結果の評定です。「学校関係者評価（総合）」は「外部評価」 7 項目の平均を四捨五入した結果の評定です。